

北海道聯合青年團編

新青年訓練教本

昭和四年の巻

全科本定價壹圓

北海出版社の

青年訓練教本

——學問に國境なし——

本教本「昭和三年の巻」は版を重ねること實に五十
三、その分布は北海道は勿論遠く關西・九州に至る
まで三府四十三縣に及び、發行後九十日にして九萬部
を賣盡し、重版又重版、遂に五十三版に及び、今や最
後の一冊まで出拂ひ、「昭和四年の巻」の豫約既に萬
に垂んとして居る。

「昭和四年の巻」は内容体裁更に一段の洗練を加へ面
目全く一新して數日中に世に現はれんとして居る。

——良書は穎脫す——

北海出版社代理部特製の

「訓練服と訓練銃」

青年團服

青年訓練服

生地・仕立何れも申分ないといふのが
定評である。

青年團旗

責任を重んじ入念に調製する弊社特製
の團旗に對する感謝狀數ふるに違なし

青年訓練帽

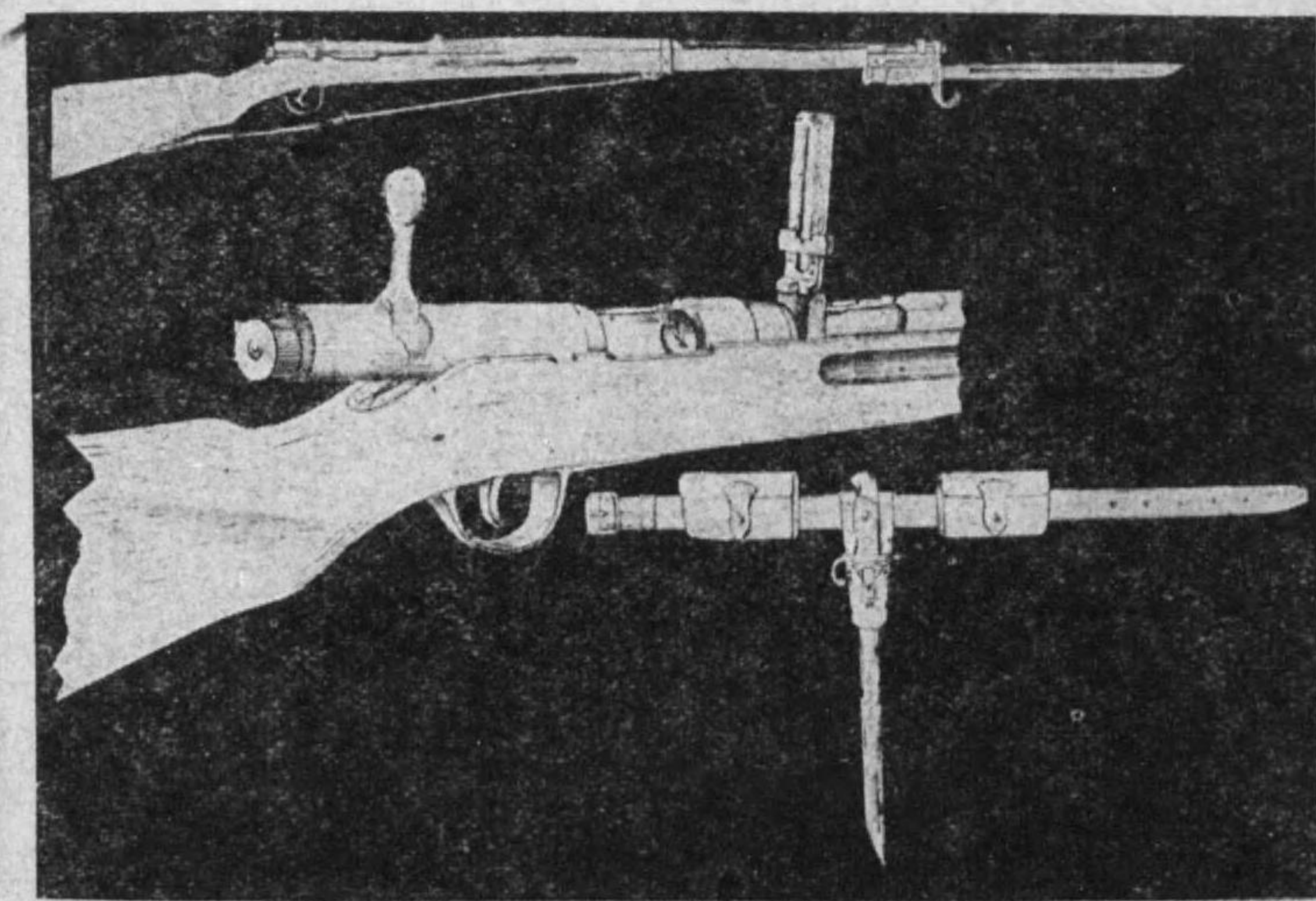
ジャンボリー型帽
堅牢にして優美。

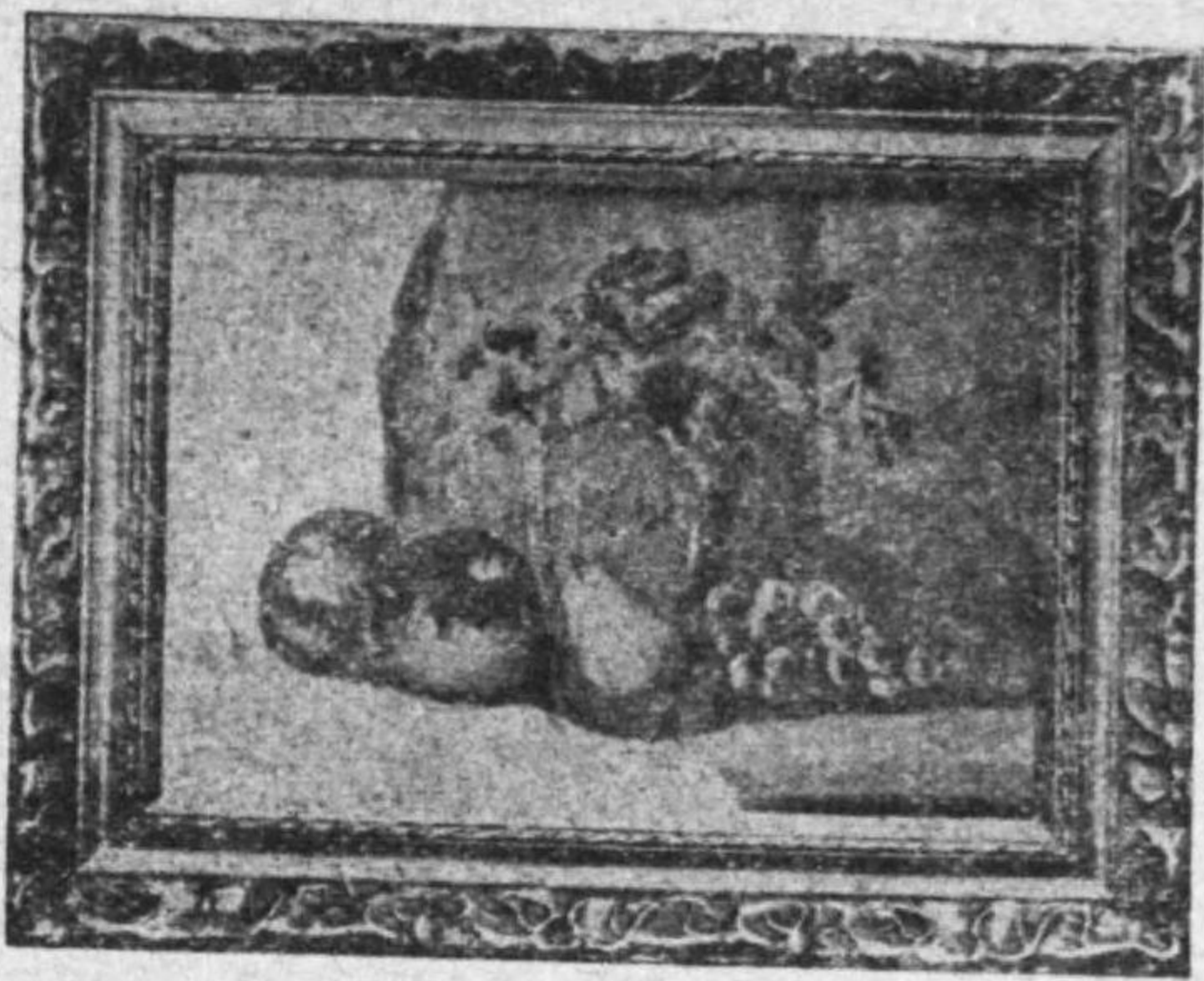
青年團徽章

體裁意匠御注文に應じて作製。

三八式擬銃

製作完成記念特價發賣中





額縁製作専門

松山賞美堂

札幌市南二條西一丁目

レーテストニュース

御大典と本道

國を擧げて喜び奉る、聖上陛下御一代の盛儀であり國家最大の儀禮である即位の大禮は、本年十一月十日、山河襟帯宛ら一幅の繪畫にも比すべき由緒深き京洛の聖都に於て擧げさせられた。此盛儀の御有様を遙かに偲び奉公の至誠を捧げ奉った二百五十万の道民は光榮と歡喜とに輝き、此聖代に生を享けし喜びを等しく胸に漲らせたのであつた。

願みるに本道が蕪蕪徒に蔓り狐狸熊羆自由に出沒徘徊した明治の初年より、産業に經濟に將又社會文化に燦然たる光彩を放つ今日に至つた拓殖の進歩は、偏へに皇恩の深きによるものであることを我等道民は心に銘し、今次の御盛典を機として本道開發の將來に向つて、一段の努力を拂ひ以て鴻恩に酬ひ奉るべきである

札幌市 八千同胞の喜びの日たる御即位當日の十日夜來白雪が町を淨め、夜明ければ日本晴の日となつた。札幌市中は早朝から花電車二臺が喜びに輝いて軌道を走り廻り十七万市民の奉祝氣分が彌が上にも高調した。四丁目十字街を中心として停車場通、南一條通の目抜き

レーテストニュース

の通りは固より薄野から大學通山鼻通桑園苗穂豊平圓山等の街道並店舗は何れもだんだん暮、奉祝提灯、國旗等によつて飾られ奉祝の意を現はし微風かすかに動いて國運長久、聖壽萬歳を壽ぐ。

園丁が今日を壽ぐ大輪菊花を荷車で挽いて行く其上に折々空からヒラ／＼と淡雪が舞ひ、次第に町に繰出して街路を練る市民の大群衆には冬の脅威感か、今日ばかりは落花を眺める床しさがあつた。

當日は未明の六時から各郵便局で記念繪葉書や記念切手を賣出したが十一時頃には早くも賣切れた所もあると云ふ景氣、御大典記念煙草の「昭和」「グロリー」も午前中に品切れになつた所もある騒ぎ、創成河畔の松飾の市もなか／＼忙しかつたらしい。市内の官公衙は元より主なる銀行會社大商店は何れも謹んで休業し各熱誠をこめて奉祝した。

札幌市民の奉賀式は十日午後二時三十分一發の花火と共に擧式、定刻式場たる大通西五丁目目の廣場には今日の佳き日を壽がんと男女市民數万參集した。定刻竹江兵籍課長擧式を宣し元海軍々樂中尉石井春省氏の指揮する中島オーケストラ及び北大文武會オーケストラ合同の大交響樂團の國歌の奏樂ありて橋本市長市民代表し賀表を聲高らかに朗讀し午後三時橋本市長の發聲竹江課長の指揮で天も裂けよとばかりの聖壽萬歳を莊嚴裡に唱へ

續いて奉祝歌の奏樂があり同三時五分全式を終了した。

小樽市 記念すべき十日の小樽は夜來より寒氣加はりチラ／＼と雪が降りつけてうすら寒く、あらゆるものは清められた。刻々移る時刻と共に各種の奉祝行事が行はれ全市隅から隅まで手を盡したる美しい裝飾と相俟つて終日奉祝氣分に満された。三百四十二名の高齡者に對する天杯奉授式は午前十時から小樽市公會堂に擧行されたが時恰も空は吹雪となり寒風雪を卷いて荒んだ、然し光榮に浴する高齡者は互に手を取り合ひ或は家族に助けられて、徒歩するもの、自動車、馬車をかゝるもの引きも切らず涙ぐましい情景の中に奉授式を終つたが、有難さに涙を拭ふもの多く手を合せて拜むもあつた。午後は寒氣一層加はり白雪は舞ひつていたがこの日の奉祝場たる小樽公園は午後二時迄に參集の老若男女約三万人と云はれた。午後二時四十分木田川市長の式辭も音吐朗々として場内に響き渡り正三時港内碇泊の驅逐艦澤風の殷々たる皇禮砲と共に天地を震はす萬歳は三唱されて目出度式を終つた。この日市内在住の外人連も威儀を正して多數參列した。

函館市 此日函館山は白雪を頂き晴れた港には大小數十隻の船舶滿船飾に装ひ美しき影を波の上に浮べ街は街から街へ國旗と奉祝提灯が連り幔幕、アーチ

花電燈で飾り、花電車は全市を運轉し、日の丸の小旗を胸に翳して道行く人の渦巻に奉祝気分は漲った。空には五段雷の花火が轟き、各官廳の拜賀式奉呈の市會、商工會議所總會、續いて功勞者御下賜品奉授式、區政功勞者表彰式が行はれた。市民の御大典奉祝式は午後二時から函館公園に於て舉げられた。この日赤子の至誠を披瀝すべく募集した市民は三万と註せられ、その廣場も立錐の餘地なく人埋められ、殊に四十七團旗を奉持した各町青年團、二十團の在郷軍人分會が式場前にならんだのは異彩を放った。定刻三發の花火が空中に炸裂するや彌吉助役奉式を宣し、次いで君が代の奏樂靜かに起つて参列者の襟を正すや大禮服の佐藤市長は莊嚴な口調をもつて奉賀文を朗讀し、かくて時計正三時を報ずるや空中高く祝砲轟き、市長の發聲で萬歳を三唱、参列者之に和して公園の天地を震かし大盛裡に祝盃を擧げて四時散會、一方港内に碇泊中の各汽船は驅逐艦峰風の百一發の皇禮砲を合圖に一齊に汽笛を吹鳴らし函館重砲兵大隊では榴彈砲四門を据ゑる全員の起立の上で皇禮砲を發射し今日の佳き日を奉祝した。

添へて市中は端から端まで戸毎に日章旗奉祝提灯で飾られ一條九丁目、奉祝塔師團通兩側の電柱一本毎には日章旗魚鱗飾り装飾し又主なる商店は趣向を競ふてそれら、店頭飾り付をなす等到處赤誠をこめた奉祝が表現されてゐるのを見受けられた百數十臺の自動車は何れも日章旗を立て馳驅し道行く人々の面も輝かしい喜の色に包まれて曠古の大典に會つた國民の類なき歡喜といふ奉祝の念が町の隅々まで満ち溢れあつた。先づ午前十一時市役所樓上へ百八十四名の高齡者に養老杯や酒肴料、祝酒等を傳達し、午後一時から奉祝市會を開き、賀表を議決した。各學校は一齊に遙拜式を行ひ、午後三時市民各種團體、官公吏約一万中島公園に集り、奉祝式を擧げた。この時野砲七聯隊は練兵場へ百一發の皇禮砲を放つた。

午後三時商業學校々庭に設けられた御大禮奉祝式場へ國歌奉唱、本橋町長の奉祝の辭に次ぎ遙に京都を拜し萬歳を三唱同時に全町民も起立一齊に萬歳を唱和しこの極東一小都の天地を揺り動かした。其他道内各地に於ては奉祝式が舉行され各官公衛學校でも拜賀式を行ひ萬歳を唱和し奉祝の意を表はし、尙十四日大嘗祭當日、十六日大嘗祭第一日の日、其他適當な日を選び奉祝の爲め各地で晝は旗行列、夜は提灯行列を舉行して御大典を心から祝ひ奉つたのである。

因に百歳以上の高齡者七名は左記の人々である。

- 旭川市 一線一號近藤市場内 百一歳 金山 フジ
- 河西郡 帶廣町石狩通 百一歳 原平三郎
- 沙流郡 門別村大字富仁家村 百一歳 白瀬つね
- 山越郡 八雲町大字八雲村宇鉛川 百四歳 鈴木善吉
- 忍路郡 鹽谷村大字蘭島鐵道官舎 百四歳 工津フヨ
- 空知郡 砂川町宇豊沼 百一歳 朝倉仁左衛門
- 利尻郡 沓形村宇ビヤコ 百二歳 井田いづは

み榮えて居る。松田氏は越後の人と同じく函館奉行に奉職し同僚間宮林蔵氏と共に樺太探險を企て即ち間宮氏は西海岸を松田氏は東海岸を探險苦心の末當時露領沿海州領に續いてゐると稱されてゐた樺太が、離島であることをつまびらかにした功勞者として北海道樺太開拓者として忘れることのない恩人である。新男爵佐藤昌介氏 今回の御大典に際し勲功に依り男爵を授けられた光榮の佐藤昌介氏は安政三年十一月岩手縣土族佐藤昌藏氏の長男として生れ明治十三年幾多の俊才を輩出した札幌農學校を卒業米國に留學しジョンズホプキンス大學に入学、農政經濟學を修めて十九年歸朝直ちに札幌農學校教授に任ぜられ同廿七年同校々長となる。同三十二年農學博士の學位を授與され同四十年東北帝國大學農科大學教授同學長等を歴任し其後北海道帝國大學總長となり今日に至る。北海道最高學府の長として人格令名あり同大學を今日に至らしめた恩人同大學の主である。正三位勲一等農學博士 賑恤御下賜金 十目御即位禮を擧げさせらるゝに當り賑恤の資として金百五十万圓御下賜あらせられたが本道への頒賜額は金四万四千三百圓である。道廳社會課では内務省訓令に基き之を地方費特別會計恩賜事業資金に加へ私設社會事業

團體補助に用ゐることゝなつた。これまで數度の御下賜金は特別會計恩賜金事業資金として利殖を計り且つ時に地方費一般會計から繰入れて資金積立をなかつた結果本年十月現在に於て廿九萬餘圓に達しこれより生ずる利子年額約一萬六千餘圓は年々道内社會事業團體の事業助成のため補助金として交付して居る。恩數と本道 恩數令は十日御即位禮當日發布されたが本道で其恩數に浴したものは左の如くである。△札幌刑務所總收容人員六百八十九名、内減刑に浴したものが二百八十二名恩數再入のため恩數に浴せざるもの三百四十二名罪質上浴せざるもの五十三名恩數再入及び罪質上浴せざるもの十二名旭川支所收容人員百三十五名恩數に浴せざるもの七十八名浴せざるもの五十七名内恩數再入のため浴せざるもの五十四名罪質上浴せざるもの三名△札幌大通支所男十名内恩數に浴せざるもの六名浴せざるもの四名女二十六名内恩數に浴せざるもの四名恩數再入のため浴せざるもの十二名罪質上浴せざるもの十名△小樽支所恩數に浴せざるもの三名、而して十日に釋放したものは札幌二名、旭川四名であつた。△函館刑務所 十日福村刑務所長は四百十一名の在監者居房に集め嚴肅裡に聖

旨を傳達した恩赦に浴した者百九十名
て即日釋放されたものは一名であつた
本道七箇所地方饗饌を賜ふ 十六
日大饗第一日當日本道に於て九千五百四
十三名の人々が七箇所の賜饌場に於て地
方饗饌を賜つたが、其資格者數と賜饌場
は左の如くであつた。

▼札幌市 大通小學校一千三百四十二
名、西創成小學校一千二百廿三名、中
央創成小學校一千名、▼函館市 廳立
高等女學校一千二百五十七名、▼旭川
市 日章小學校一千二百九十一名、▼
室蘭市 廳立室蘭中學校七百廿五名、▼
釧路市 廳立第四小學校一千九百九十二名、▼岩
見澤町 廳立岩見澤中學校三百九十九名、
名、岩見澤高等女學校五百九十九名、
▼網走町 女子小學校九百九十九名
本道教育功勞者 文部省は御大禮記
念として卅年以上勸績教員及び十五年以
上の社會教育者にして功勞ある者を御大
禮當日表彰したが本道で其光榮に浴した
人は大學六名、師範一名、中學四名、高
女三名、實業一名、中學類似一名、小學
二〇名及び社會教育功勞者一名の計卅七
名であるが、其氏名左の通り
○勤 續者
北海道帝國大學總長佐藤昌介、北海道帝
國大學教授小倉鈿太郎、同高岡熊雄、同
松村松年、同時任一彦、同吉町太郎一、

小樽商業教諭神成順助、札幌師範學校長
柴垣則義、札幌第一中學校校長山田幸太郎
札幌第二中學校教諭佐藤庄吾、北海中學校
教諭木村收、同鈴木勝治、札幌高女教
諭林竹治郎、函館大谷高女伊藤秀末、旭
川實科高女校長澤井兵次郎、札幌郡團山
尋高小學校校長兼札幌師範學校訓導
渡邊永助、同下手稻尋高小學校訓導
釜石初太郎、厚田郡古澤尋常小學校訓導
兼校長篠原龍音、空知郡砂川尋常高等小
學校校長兼訓導鎌田政吉、同開發尋小
學校校長兼訓導木桑三郎、留萌郡茶内同
菊地節造、宗谷郡洞内同二階堂與市、常
呂郡野付牛中央尋常高等小學校訓導兼校
長海江田金、廣尾郡明道同寺島壽門、上
川郡阿羅川尋常小學校訓導兼校長津坂丈太郎、
瀬花郡玉川尋常小學校訓導兼校長大關榮作、同
邊尋高小學校訓導兼校長伊藤博愛、同珍古
小砂子尋常小學校訓導兼校長菅原卓郎、
禮文郡上泊同宮澤熊太郎、松前郡清部同
太田秋松、札幌市北九條尋高小學校訓導兼
校長中田直義、函館市若松同佐藤市彌、
同私立聖保祿女學校教員島貫政治、同鶴
岡尋常小學校校長秋尾八四郎、小樽市稻穂
女子尋常高等小學校訓導兼校長南野三郎
○社會教育功勞者
空知郡蘆別村青年團參事 根井清作
社會事業殖民事業功勞者 望月内相
は御大典に際し十一月十日社會事業並に

移殖民事業に關し功勞顯著なる百五十二
名に表彰状と共に金杯一個宛贈呈した。
其中本道で表彰された人々は
▲社會事業功勞者 寺井四郎兵衛、水越
伊代吉、ジョンパチエラー、山田範三
郎
▲移殖民功勞者 泉麟太郎、和田郁次郎
乾定太郎、守田岩雄、山本日聰、龜井
三四郎
▲政府は十七日社會事業に盡瘁した各方
面の功勞者九十五名を表彰したが本道
より水産改良事業功勞により藍綬褒章
下賜せられた者は函館市辨天町小熊幸
一郎氏一名である。

◇御大典に關する
IKの無線中繼放送
JOKの無線中繼放送により十日午
後一時二十分より御即位禮紫宸殿の御儀
の莊嚴なる御模様を放送された「遙に紫
宸殿の御模様を拜し奉れば……」とま
づ御即位禮前の状況放送に次いでい
聖上高御座に登ります大典の御模様はア
ナウンサーの説明により手に取る如く放
送され田中首相の發聲により参列諸員の
萬歳にラヂオファンはいづれもこれに唱
和した。かくて三時四十分建禮門前儀仗
隊の奏樂あつてこの歴史的中繼放送は終
つた。
尙御大典に關する札幌放送局の中繼放
送計畫は左の如くであつた。

中 繼 事 項

マイクホン又は
合圖の施設場所
警視廳附近
丸の内ビルデング
東京驛
驛前奉祝門附近、丸
屋旅館内、名古屋驛
右に同じ
京都驛奉祝門附近京都演奏所
京都日々新聞社前建禮門外
京都演奏所
右に同じ
右に同じ
建禮門外
右に同じ
京都演奏所
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
右に同じ
宮城御發聲前の状況放送の爲め
宮城御發聲より東京驛御發聲迄の間に於ける鹵簿進御の御模様
儀仗隊の奏樂東京驛御發聲の御模様沿道奉送の状況等放送の爲
名古屋市御着の状況放送の爲め
名古屋市御發の状況放送の爲め
京都驛御着車より京都御所御着迄の間に於ける鹵簿進
御の御模様、儀仗隊の奏樂奉迎の状況等放送の爲め
御大典に關する官廳公示事項其他のニュース放送の爲め
右に同じ
皇靈殿奉告の儀、賢所大前の儀状況放送の爲め
御即位式紫宸殿の儀、群臣萬歳唱和、建禮門前儀仗隊の奏樂等
放送の爲め
御大典に關する官廳公示事項其他のニュース放送の爲め
大嘗宮の儀に關するニュース放送の爲め
右に同じ
御大典に關する官廳公示事項其他のニュース放送の爲め
右に同じ

Table with columns for date (日), time (時), and location (送出局). Rows list dates from 十六日 to 六日 and corresponding broadcast details.

たのであるが、田中總理、三土藏相共に前年の證言は全へ忘れたるが如く、徹頭徹尾非募債主義を標榜して金は前年額通り迄は奮發するが夫れ以上は出せぬ、北海道の事も大事だが國の財政を減茶々々にしてまでも北海道に一千二百萬圓もつき込まねばならぬ義理はないとて三年度不成立豫算と同様二千八百二十三萬圓に削減し閣議に附し、閣議も之を承認したのである。豫算閣議を終へた翌月内相は十月廿七日官邸で左の如く語つた。

北海道拓殖計畫を増額し得なかつたことは甚だもつて遺憾にたへないが大藏大臣が無袖はふれないといふからやむを得なかつた。北海道の諸君も色々熱心に運動して居られたからさぞかしお力落しのことと思ふが財政が許さぬとあれば如何ともし難い。しかし將來に關しては我々も相當考へてゐるから僕と田中首相と三土君とで相談して何とか將來の計畫に對する聲明書でも出したと考へてゐるからそれで満足して欲しいと思ふ。

以上閣議で決定した二千八百廿三萬圓は昨年度道廳拓殖財源から見ると政府の一般會計から五百萬圓程支出したことになり更に之を憲政會内閣當時樹てられた既定計畫の年度割二千八百六十九萬圓に比すれば四十六萬圓を不足する有様で積極政策を標榜する政友會員としては一般道

民に對する面目に關するばかりか、民政黨員に對しても顔が立たぬ譯である。

北海道拓殖計畫豫算案の貫徹については上京中の各代議士、道會議員、支部員の一團は全く文字通りの猛運動を續けて来たが、大勢は如何ともし難く十月廿六日の閣議終了後から廿七日にかけての關係各閣僚の協議の結果は遂に大藏當局の査定通り明年度拓殖豫算は二千八百廿三萬圓と決し、其代り五年度以降に於ては北海道の自然増収の如何に拘らず毎年今回政府の一般會計から補充したと同額のものを支出することに大體政府の方針が決定したので、苟くも閣臣ともあるものが前年の證言を反古にするのは以ての外だと怒り出したのが支部員一同だ。そこで支部員一同は悲壯な面持のうちに廿七日午後一時日比谷公園横同氣クラブに會合、愈々最後の覺悟を決するに至つた。

この日會する者木下、東、三井、板谷、林、佐々木、平出、松實の八代議士(岡田代議士は歸省、森代議士は旅行中)、田中幹事長、前田、丸山道會正副議長、各道會議員、支部員等約三十名に達し先づ木下支部長から拓殖問題今日までの経過を述べいよいよ我等の取るべき最後の時が来た旨を告げ、これに對し出席代議士側は既に與黨道會議員廿七名が残りず脱黨届を木下支部長の許に提出してゐる以

上、我等はその誠意を無にすることは出来ぬ。よるしく態度を一にして道民に見ゆべきであるとして出席八代議士はいづれも一致脱黨を申合せ三時散會したが一兩日中に上京の岡田、森兩代議士にも直に此の申合せを計りその決意を促すこととした。尙一同は午後五時から再び赤坂溜池の「高砂」に會合し上京中の支部員最後の懇親會を開くと共に今後の行動につき打合せたが脱黨の形式としては、數日中に一同一まづ北海道へ歸り直ちに政友支部大會を開き大會の名をもつて同支部を解散し其上與黨選出の十代議士並に廿七名の各道議は全支部員と共に聲明書を天下に發して政友會を脱すべく打合せたのである。

此政友會北海道組の脱黨騒ぎに對し黨幹部は翌廿八日朝來政府側と交渉し一方木下總務を通じて同日北海道代議士連名のもとに發表することにしてゐた聲明書の公表は暫く保留せしめて政府與黨間に何等か妥協の道を見出さんと努め、島田幹事長は同日午後田中首相、三土藏相、並に秋田内務政務次官と會見して妥協案の作成につき協議し更に同日午後五時から政友會本部に秦、廣瀬、木下三總務松野選舉部長、島田幹事長等會合し其對策につき約三時間互つて協議を續行した而して政府側對案の内容は

一、北海道拓殖計畫に關する年度割につ

いては北海道拓殖計畫による實収入を毎年二千五百萬圓と見做し然してこれに國庫より三百萬圓を増して二千八百萬圓見當を捻出すること若し實収入が二千五百萬圓以下に下る時は二千八百萬圓に達するまで國庫支出金を増加し又若し實収入が二千五百萬圓以上上る時といへども國庫支出金の三百萬圓は必ずこれを追加すること、しかしてこの方法による年度割財源については一年限りとせず昭和五年度以降永久的にこの方法を認めることを政府が聲明すること

二、案の根本的問題についてはこれを後日の問題として大藏省側委員を加へて澤田長官案の根本的改訂を計るための調査會を設け其結果をもちて政府はこれを繼續豫算として議會に提出するを右二項については政府は来る三十日の閣議に付議し其細目については首相、藏相内相の三大臣の協議によつて最後の決定をなすこととなつた。然して此政府の對案については興黨幹部は大体これを諒と案として以上の注文をつけることは無理であるとしてゐるに反し北海道組の態度は依然強硬で廿八日朝來寄々協議を遂げた即ち北海道組の意向は從來の主張たる額を認めて其額だけは昭和五年度以降永久的の財源として政府が承認し然し

て不足額は國庫支出金によらずして公債によるべきこと。

一、案の根本計畫については急速に改訂して昭和五年度以降に間合ふやうに繼續豫算として議會の協賛を求めることの二點を固執してゐる爲めに双方の妥協は成立しなかつた。

翌廿九日日本道出身代議士は植木屋旅館に會合し種々協議の結果

木下總務の手許にとりまゝとめてある脱黨届の處置につき同總務は政府並に與黨幹部側の慰留の結果未だ脱黨の手續をとなつてゐないが、これは北海道側の意思を無視するものであり然も我々としては政府側の妥協案に對して最早考慮の餘地がないから此際脱黨届並に廿七日夜の申合せを發表しもつて木下總務をして直ちに脱黨手續をとらしむべし。

と決定し午後三時散會した。

申合せ書

我等は帝國の重要國策たる北海道拓殖計畫に對し現政府のとれる姑息不徹底なる態度に憤慨し敢然として連袂脱黨の決意をなしたり。よつて我等は倍々一致結束しもつて國策の積極的遂行を期するため、左の申合せをなしその實行を誓ふ。

一、廣く同志を結合し新に政治團體を組織す

一、道會開會前支部大會を開き解散の決議をなすこと

一、右準備委員として本日出席せる全員これに當り尙必要に應じ適宜委員を囑託すること

板谷順助、松實喜代太、林路一、三井德實、佐々木平次郎外道會正副議長

尙當日欠席した東農林政務次官並に旅行中の森、岡田兩代議士等も同一行動に出づることと諒解した。

田中首相は昨冬立憲政友會總裁として又三土藏相は昨春在野當時政友會總務として更に又現内閣は昨冬閣議の決定をもつて北海道第二期拓殖計畫に對しあるひは財源を確實にしあるひは事業公債を發行する等根本的改訂を加へもつて積極的施設をなすべく言明を與へたり、然るに今や昭和四年度豫算編成に方り政府はことごとくこれを裏切り姑息不徹底等新味の見るべきものなし北海道拓殖は現下行詰れる人口食糧並に對外貿易問題を打開しよつてもつて動搖せる民心の安定を策すべきもつとも重要な國策なりとして多年その促進を力説せし我等はかゝる政府の與黨たる政黨に妥協として止まること能はず、こゝに立憲政友會を脱黨す。

(備考)東農林政務次官は目睫に迫つた

自作農創設等の大問題を解決してから行動を共にすると言明した。越えて廿日の閣議にも依然廿七日決定通り遂に明年度の豫算は政支部幹部の要求は貫徹されなかつた。

かくして政府と北海道組との意思益々疎隔するに至つたので政府は北海道第二期拓殖計画につき小川鐵相を主として北海道組の諒解を求めるとし、先づ三十日午後三時三十分於て三土蔵相より與黨幹部に豫算を内示した。後小川鐵相より北海道拓殖問題について説明を加へ、これが善後策につき協議したが與黨幹部に於ては政友會として北海道拓殖問題について出来得る限り努力したことであり政府の決定した北海道拓殖案は妥當のものであつてこれ以上のことは政府としてもなし得ないであらうから北海道組としてもこの際與黨の如き無暴の舉に出づることとは萬あるまいが若し政府及び與黨がこれまでに誠意を盡したにも拘らず與黨が下支部長が本部の総務であるし適當の方法を講ずるであらうから、これに任して慰撫とか引留といふが如きことはしないこととし、もし脱黨届が出たら其上で黨としての善後策を講ずることとなつた。然し東北團體としては北海道は東北團體内の一部份である關係上従來の關係に鑑み北海道の慰撫をなすことになり三十日菅

原遊説部長、熊谷黨務委員長は東北團體幹部として北海道組を植木屋に訪問、林松實兩代議員、田中支部幹事長と會見留黨するやう懇談を重ね且つ東北團體は廿一日日本部に於て會合北海道組慰撫善後策につき協議することになつた。廿日午前田中首相から北海道組鎮撫の命を受けた小川鐵相は政友會本部に木下支部長と會見首相の肚裡を傳へて慎重なる行動を希望し種々調停の勞を取り、廿一日にも木下支部長を鐵相官邸に招致して政府は財源難の爲め北海道組が主張希望する如き北海道第二期拓殖計画を認むること不可能である理由を詳細に説明諒解を求め之が爲め連袂脱黨するが如きことなきやうにせられたしと慰留する所あり更に兩氏打連れて午後田中首相を訪問、首相より木下氏に對し極力慰留に努めた結果木下支部長も政府の誠意に動かされ漸次軟化し將來の計畫について政府の考慮を求めて辭去、又同日北海道組慰留のため政友會東北團體は芝三線亭に會合原熊谷兩氏の外北海道選出代議員等凡そ廿五名出席北海道組に對し特に自重されたしと慰留する所があつた。

脱黨問題一先解決

十一月一日島田幹事長は官邸に田中首相を訪問し同日の幹部會に於て北海道拓殖問題に關し政務調査會に特別委員會を設け委員長に鈴木喜三郎氏を推し各團體

並に北海道選出代議員を委員として政府の査定たる二千八百餘萬圓案、民政黨の北海道内収入をもつて實行する案、北海道廳案(十八年間繼續總經費九億圓)政友會政務調査會案(二十ヶ年繼續總經費十二億圓)の各案につき公正なる立場より研究調査することに決定し北海道代議員も大体これに同意するに至つた旨を報告し首相の諒解を求めたので首相も與黨のこの説を諒とした。

以上北海道第二期拓殖計画問題に對する北海道組の脱黨騒ぎには政友會幹部並に小川鐵相の斡旋に依つて大体諒解つき脱黨届を木下支部長の手許に握りつづ事となつたので田中首相は三日午前十時永田町首相官邸に木下、岡田、三井の各代議員等北海道組八名を招致し本部よりは秦總務、島田幹事長、熊谷黨務部長、松野選舉部長も列席先づ田中首相から明年豫算編成に對し大藏省の苦心した事情を述べたる後

各方面共非常なる緊縮をしたが北海道だけは特に相當なる増額を爲したのてある。之に對しては尙不滿の點もあらうが自分としては決してこれのみで満足するものではない。今後出来るだけこの問題につき心配し根拠ある確平たる計畫を樹てる積りであるから、この際これにて我慢して貰ひたい。本部でも特に調査會を設けて右計畫を進める

本道の共産黨事件 豫審結果

事となつたから支部として希望してゐる所は該調査會に訴へ相協力して立派な案を作る事に努力されたい。

と諒解に努め之に對し木下支部長は本計畫は一地方の問題でなく國家的大問題であるから等閑に附せず成るべく速かに之が實現を期せられたい。

との希望を述べ次で田中北海道支部幹事長から今回本部が多量の盡力をなしたるに對し謝意を述べ併せて今後の盡力を希望し、島田幹事長から幹部の努力が効を奏せざりしは遺憾であるが今後は充分努力する旨を述べ、技に脱黨問題は一先解決の姿となつたが改訂案は依然未決である

有罪と決定された人々
二千五百八十八年來連綿として傳はる金甌無缺なる日本の國体を根本的に變改し勞農階級の獨裁政治を樹立の目的から革命の第一歩として組織された日本共産黨の一味は本年三月十五日の拂曉を期して一齊に檢擧されてから約六ヶ月、この間各所轄地方裁判所に於て豫審中の所漸次終決を告げつゝある。本道に於ても函館を皮切りに旭川、札幌と九月十七日午後四時に至つて其一切の報道の自由を得た結果有罪と決定、治安維持法第一條によつて公判に附されたものは札幌十三名

小樽十六名、函館十七名、室蘭五名、旭川十名(一名札幌地裁で豫審終決)の合計六十一名である。

共産黨一味の本道宣傳狀況

今彼等が宣傳の跡を顧れば僅に二ヶ月間の短時に過ぎないが素晴らしい發達を見せてゐる。先づ彼等が本道に於ける黨員勧誘の主眼點は工場細胞への潜入にあつた。それだけに僅かに二ヶ月餘りに順調な發達を見せたのである。即ち札幌では製網會社、鐵道苗穂工場、製麻、麥酒等の細胞に喰ひ入りつゝあり函館の如きは全くドック會社の職工を以て黨員の大多數を占め如何に今後の細胞組織がなされて行つたか想像に値するものがあつた。室蘭の如きも製網所を始め苦小牧の王子製紙工場まで其手が延びてゐる。たゞ労働者の多い小樽は始終労働組合員の上主力を注いでゐたらしいが郵便集配人まで喰入つたところば宣傳が如何に巧妙であつたか窺はれる。かうして都市に於ける工場細胞、街頭の兩細胞に潜入する傍ら旭川を中心として附近の町村の農村細胞への運動を猛烈になし尙美唄地方の農村へも宣傳してゐた様子である。斯くの如く範圍は札幌、小樽、函館、旭川、室蘭の五市に美唄を中心として農村の一部でこれがオルガナイザーは、運命は皮肉にも實に元大阪伊勢崎警察署高等刑事〇〇〇〇〇〇(三五)と其内縁の妻九津

見房子(三八)の兩名であつた。彼等が本年一月中旬東京の共産黨中央部の使命を帯て密に來道札幌市南九條西六丁目四二番地に岡山縣人と云つて標札も吉田幸一と云ふ世人の目をくらます爲の隱家を構へたこと、が所謂名實共に北海道に於ける共産黨本部となつてゐたのである。〇〇〇〇〇〇はこれを根據地に、各地の勞農、日勞、全日本農民組合、同日本無産青年同盟、日本勞働組合評議會等々の左傾思想の幹部と屢々會合の上黨の規則に基いて各地區委員、其下には各細胞委員を配置し組織の完成を告げた。折柄衆議員議員の總選舉に際してこのごめん、の渦中を利用して黨員の増加に努めんと札幌市南一條西十三丁目圓山湯の隣家にある三階の間貸の一隅を借りて選舉對策本部を設け表面は無産階級立候補者の應援事務所と見せて實は工場細胞に農村細胞に潜入する協議を告げ着々として其の實行にかゝつてゐた。これが爲め二月中旬には約八十名の黨員が出來たのでこれを第一線に秘密出版物赤旗、共産パンフレットとして北海道通信、北海労働等の機關紙として北海道通信、北海労働等を發行した。〇〇〇〇〇〇の隱家は九津見房子と娘(假名)系子(一五)の兩名が黨員連絡のための秘密文書やパンフレットを謄寫版刷にして全道の區委員に密送〇〇〇〇〇〇はまた中央と連絡の爲め數回上

京してゐた。かくの如く本道大合社、工場
の細胞に喰ひ込み左傾団体の共産化に
努め黨員が稍々増加の半ばに司直の手入
れとなつたものであるが、當時警察が約

一ヶ月の活動によつて容疑者として檢舉
されたものは約四百名に達した。併し取
調の結果今回豫審終決を見た以外のもの
は何れも放還されたのであつた。

本道に於ける共産黨員連鎖表

北海道 (オムガナ イザナ)	札幌地区委員 沼山 松藏	寺島 親藏 石原 上村 金子 正一	吉久 太田 四郎
田口右源太	高橋 要吉	菊地 米吉	小樽地区委員 武内 清
渡邊 利右工門	正木 勝治	近藤 隆策	秋山 成田 泰三
室蘭地区委員 山口 利哉	床波 均吉	山本 慎吾	萩原 信夫
函館地区委員 鈴木 治亮	森永 啓次	水谷 三重吉	齊藤 全市
村 上 由園	釜谷 儀一	小橋 秀夫	長谷川 忠壽
佐藤 忠壽	小橋 秀夫	伊藤 富雄	豊吉

本道に於ける共産黨檢舉経路
共産黨秘密結社の全国的檢舉の内報に
接した道廳特別高等課は地方裁判所と連
絡をとり札幌控訴院の安達検事長を總指
揮とする檢舉隊を編成し、警保局より發
せられた全國一斉捜査の三月十五日午前
五時を期して札幌市 合同労働組合事務
所 辯護士木田茂晴氏宅 労働支部、函館
市 一般労働組合事務所、高島末太郎宅
労働支部、小樽市 境一雄、菊地米吉
宅 合同労働組合事務所、地方評議會事務
所、旭川市 日本農民組合事務所、室蘭
市 労働支部事務所、釧路市 労働支
部、美唄市 月形村安住豊宅等を襲ひ
いづれも證據物件を押収すると共に三十
五名を檢束し嚴重取調をなしたところ
連累者續々發覺し、同月廿九日に至り函
館市に有力なる證據である暗號名簿發見
更に卅日は警視廳で共産黨員名簿を發見
して第二段の檢舉に入り、以來取調へと
共に斷續的に檢舉を見て其の檢束者二百
五十名に上り、内七十六名に對して拘引
狀を發し札幌、函館、旭川の各地裁檢事
局で嚴重なる取調をなしたが遂に四月五
日から三十日に至る間に六十二名を起訴
に決定した。各檢事局はいづれも刑務支
所に收容して絶對面會を許可せず、豫審
に附して審理中であつたものでいよいよ
豫審終結公判に付せられることとなつた
然して被起訴者は檢束當時は昂奮して留

置場で革命歌を高唱する等の不穩のもの
ありまた起訴後五月一日メーデーの當日
計畫的にメーデー歌を一齊に歌つたもの
てあるが豫審中は極めて従順であつたと
いふ。

被檢束及起訴者の署別、職業別、
學歷別及年齢別

署別	起訴	檢束
札幌	三	三
函館	六	六
小樽	七	七
旭川	三	三
室蘭	三	三
釧路	四	四
自由労働者	四	四
金屬職工	八	八
電報配達	一	一
電車従業員	四	四
被起訴者學歷別	其	其
高等以上	二	二
高等以上	二	二
被起訴者年齢別	六	六
二十歳迄	六	六

旭川地区委員
山名 正實

安住 豊一(札幌地裁豫審)
松岡 二十世
荒岡 庄太郎
吉田 吉之助
荒 哲夫
山本 作二

函館共産黨事件判決

本道に於ける共産黨一味の被告等は札
幌、函館、旭川の各地裁に於て審理され
てゐるが、函館の共産黨事件は十一月二
十二日午前十時井上裁判長から左の如く
判決言渡しがあつた。
▲懲役三年六月(未決拘留百日通算)齊藤
金市▲五年鈴木治亮▲五年(四十日通算)
村上由園▲二年六月(百日通算)釜谷儀一
▲二年六月(百日通算)静秀雄▲二年六
月(百日通算)小橋秀夫▲二年(百日通算)
小原道雄▲二年(三十日通算)長谷川春吉
▲二年(四年間執行猶豫)五十嵐徳一▲二
年六月(百日通算)森永啓次▲二年(四年
間執行猶豫)森内幸吉▲二年(百日通算)
佐藤忠壽▲二年(百日通算)水谷三重吉▲
二年(四年間執行猶豫)中兼豊吉▲二年(四
年間執行猶豫)中村健一郎▲二年六月(百
日通算)志田謙二郎

最近の本道六市人口

昭和三年十月一日現在内閣統計局に於
て推計したる全國の總人口は六千二百十

二万二千二百にして昨年より八十万五千
六百人の増加を示し、内我北海道は二百
五十八万六千九百人にして前年より二万
九千八百人を増加して居る。

次六市の人口は
札幌市 十七万一千九百人
旭川市 七万九千三百人
小樽市 十五万一千一百人
函館市 十七万六千一百人
室蘭市 四万六千二百人
釧路市 四万四千二百人
といふ推計數字を示し就中札幌、函館兩
市の増加率は非常の勢を示して前年迄は
兩市共仙臺市を凌駕してゐたが仙臺市は
本年の七月隣接の原町長町及七郷村字南
小泉を併合した結果十八万三千となり札
幌、函館兩市を遙に凌ぐに至つた之がた
め從來我國十大都市は
大阪、東京、名古屋、京都、神戸、
横濱、廣島、長崎、函館、金澤
の順位であつたのが仙臺市の進出により
金澤市が落伍しかはつて仙臺市が十大都
市の一に新たに加はつた譯である。尙道
廳統計當局の観測によると札幌市も近き
將來十大都市の一に列するの可能性がある
とのこと、四面農村を控へた札幌市の
文化が如何に急激の進歩をもつて發展
してゐるかが知られやう。

大日本乳製とネ社の合同

札幌市所在の大日本乳製品株式會社は昨年十一月世界著名の大煉乳會社たる瑞西のネスル煉乳會社に對し合同談を持ちかけ爾來兩者の間に再三折衝を重ねつゝあつたが本年四月ネ社長最高技師が來道し約一ヶ月に亘り審らかに實狀調査を遂げた結果合同の機運一段と濃厚となつたので古谷同社社長はロンドンに開催された萬國酪農會議に出席の歸途瑞西のべに於てネ社代表者と會見し種々交渉を重ねた結果去る八月八日兩社の合同成立し同十一日調印を了するに至つた而して合同の條件は

一、大日本社の資本金現在百万圓(六十六万二千五百圓拂込済)を四百万圓に増資すること

一、持株はネスル社二、大日本社一の割合を以てすること

一、名稱は大日本乳製品及ネスルカンパニー會社とすること

其他三、四項で大日本社は右條件を九月三十日同社株主總會にかけ一二の反對はあつたがいよいよ合同と決定を見るに至り明年度から新に札幌大工場を建設し事業に着手することになつた。其計畫の大要は、現在の苗穂工場を廢して新たに大日本社所有地たる苗穂の工作會社跡七千二百坪に一ヶ年三十万圓の製造能力を有する大工場を建設しこれにネ社の佛國サンカンタン工場にあると同型の世界最新

式機械を据ゑつけ模範的煉乳工場たらしめんとするものであつて大日本社の總會終了したのてネ社増資のうち百万圓を拂込み直ちに工場建設に着手し來年八月頃迄に竣工せしめ作業を開始する豫定であること云ふ。而して同工場は道産乳を原料として専らワシ印を製造し初年度に於て十三万函を製産、將來三十万函に達せしめ從來の大日本乳製品札幌印、熊印三種は木古内及八雲兩工場に於て製造することとなるとの事である。

全國酒類品評審査結果

第十一回全國酒類醬油品評會審査の結果に基き十一月廿二日東京醸造試験場に於て大藏省黒田次官藤井主税局長森國税課長其他出席褒賞授與式を行つたが本道受賞者の主なるもの左の通り

- ▲名譽賞 なし
 - ▲優等賞
 - (清酒) 富久天狗第一號 日本清酒株式會社
 - 第二工場、富久天狗口號(同上) 富久天狗第三號(同上)、富久天狗イ號(同上)
 - 富久天狗第二號(同上)、富久天狗八號(同上)
 - (燒酎) ハコダテ函館市丸善菅谷合名會社
- 道會提出の昭和四年度地方費豫算
- 本年十一月廿八日招集の昭和三年通常

道會に提出された昭和四年度北海道地方費豫算は

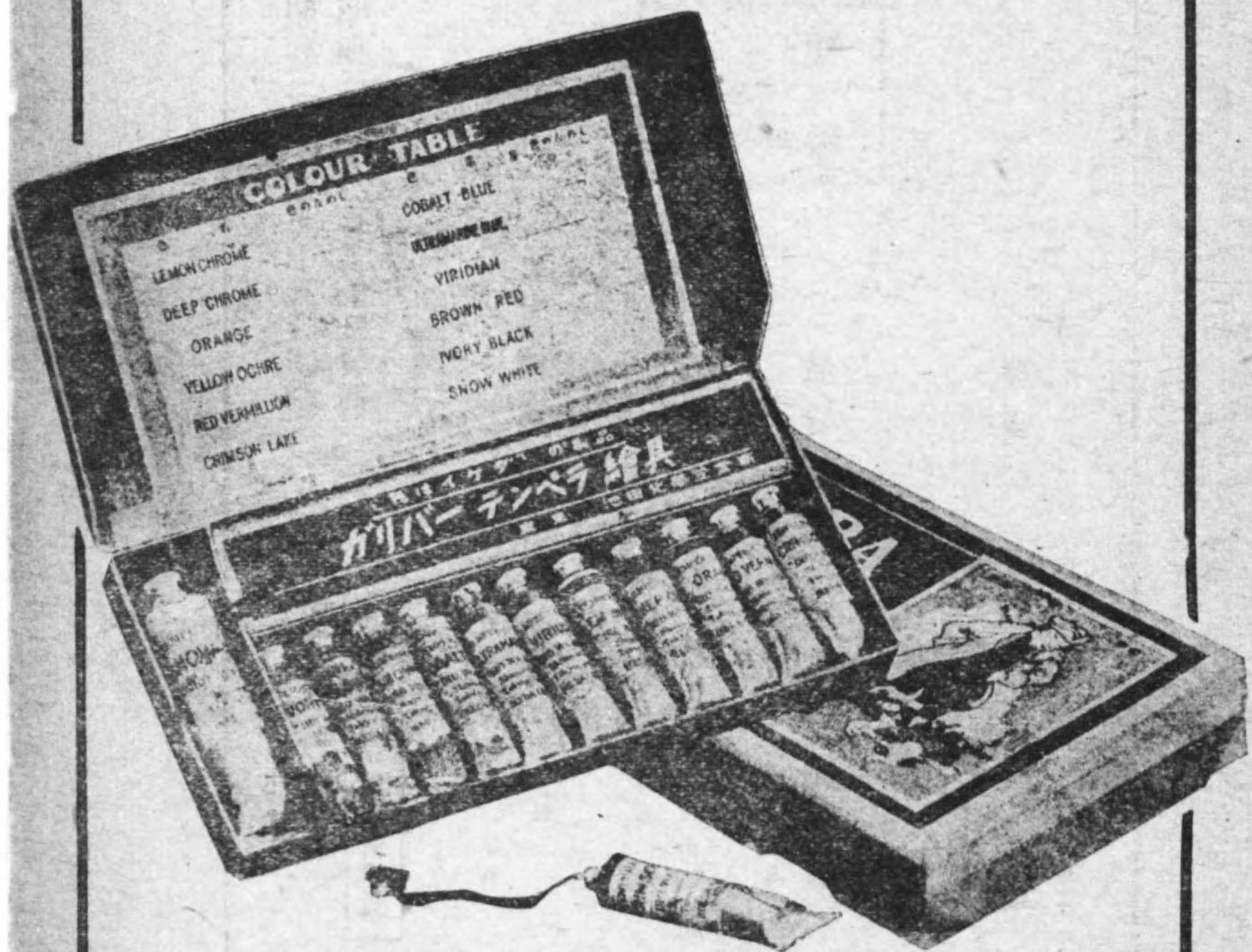
- ▼歳入經常部 一千九萬八千四百四十二圓
 - (前年に比し八萬一千四百三十七圓減)
 - △同臨時部 百六十八萬三千二百十圓
 - (前年に比し二萬七千四百八十五圓増)
 - 總計一千七百七十八萬五千二百五十二圓(前年に比較減五萬三千九百五十二圓)
 - ▼歳出經常部 九百八萬七千七百七十九圓
 - (前年に比し二十萬五千四百圓減) △同臨時部 二百六十九萬二千八百七十三圓
 - (前年に比し十四萬六千五百五十八圓増)
 - 歳出總計千七百七十八萬五千二百五十二圓(比較減五萬三千九百五十二圓)
- にして經常臨時に通算する時は前年度豫算に比し五萬三千九百圓の減少である

本道移民

本年一月から十月末までに本道へ渡つた移民數は三千三百七十六戸、此人口九千九百六十一人で、數年來見ない程の盛況を呈してゐるが、移民數の最も多いのは福島縣の一千七百九十四人、次が宮城縣の六百七十八人、高知縣の五百五十一人、徳島縣の五百五十一人、岩手縣の五百四十一人であるが、其他全國各縣からも少數の移民があつた。來住者は根室、河西、釧路國、上川各支廳管内が主であるが、本道も最早雪の季節であるから移民團の渡來は明春までないであらう。

具繪校學的想理

具繪ラペンテ印ーバリガ



社會式株業工學化田池 京東 元造製

店理代總道海北

部理代社版出海北



ENJOY WINTER
SPORTS.

川 旭。祐 水
店 具 動 運 屋 梅

昭和三年十二月十五日印刷
昭和三年十二月二十日發行

北海道年鑑
定價金貳圓五拾錢

不 許
複 製

編纂者

札幌市南二條西十二丁目
石 田

磊 三

印刷所

札幌市北一條西二丁目
札幌印刷株式會社

發行所

札幌市南二條西十二丁目
北 海 出 版 社

振替口座小樽一二七〇七番

發賣所

札幌市南一條西三丁目
富 貴 堂 書 房

振替口座小樽三一七番



北海道に於ける
 三 菱 炭
 美唄炭・芦別炭・大夕張炭
 大夕張コークス・雄別炭（一手販賣取扱）

一ヶ年産出高 壹百四拾萬噸

三菱鑛業株式會社 北海道賣炭所

小樽市色内町八丁目三番地

營業所

小樽 室蘭 函館 釧路
 札幌 青森 船川 仙臺
 大湊 酒田

スオフリカ 專特 賣許
(里加酸磷)

酸磷過十三 專特 賣許

大日本人造肥料株式會社

創立明治二十年
資本金三六五。萬圓

小樽出張所(拓元)
函館工場(龜田)



14
4
773

終